

松文産業(株)旧女子寮「精華寮」の建築 (4) 古写真にみる寮内の生活風景

多米 淑人*, 吉田 純一*

The Buildings of the Dormitory called `Seika Ryo` in the Matsubun Industry Co., Ltd. (4) Life Scenery in `Seika Ryo` by the Old Photographs

Tame YOSHIHITO and Yoshida JUNICHI

This article is a survey about the construction of the girls dormitory which the Matsubun industry Co., Ltd. owns. This report clarifies the scenery of the old life in the dormitory referring to the old photographs.

Keywords: Matsubun Industry Co.,Ltd., dormitory, Seika Ryo, entrance building, lecture building
state

1. はじめに

先稿(その1)から(その3)において、建築調査や古写真、聞き取り調査を通して、「精華寮」を構成していた宿舍棟、玄関棟、講堂棟の各建物について、現況や旧状の復元について考察した。ところで、今回の建築調査に伴って、松文産業(株)に46枚に及ぶ旧女子寮に関わる古写真が保管されていることが明らかになった。これらの古写真の一部は、宿舍棟や旧玄関および講堂棟の旧状を具体的に示す資料として、すでに一部紹介したが、ここでは、「精華寮」での女職工さんたちの「精華寮」での生活風景や生活ぶりを古写真から探してみたい。

2. 「精華寮」の生活風景

①寮室(古写真20・21)

宿舍棟に設けられていた寮室での生活の一端は、古写真20や古写真21から伺うことができる。古写真20はすべて浴衣姿で夕食後から就寝前の1コマと思われるが、これらの5人がこの部屋の同居人であろう。奥の2人は読書にふけている。机を前に写真を眺めている人もいる。手前の女性は手紙を書いているのであろうか。その左手奥のベランダに腰掛けている女性は届いた手紙を読んでいるのであろう。

また、古写真21は寮室内での生け花の講習風景である。講師の先生が床の間に花を生けている。手前では10人の女性が2列に正座し、それを見つめている。左手前の女性は制服を着ているが、

* 建築学科

残りはすべて浴衣姿である。これも夕食後の一コマであろう。なお、人数から見てこの10人は2寮室分の同居人と思われる。すでにみたように、宿舎棟の3棟はいずれも1, 2階にそれぞれ6室ずつ並んでいたからとられ、3棟で合計36の寮室があったことになる。これらいずれの寮室においても古写真20や21にみられるような生活風景が展開されていたと思われる。また、古写真から1寮室は5人同居とみられることから36室となれば、総計180人余の収容が可能であったことになる。

昭和35年に入社した齋藤ケサミ氏によると、当時は400人ほどが入寮しており、最盛期には1部屋に7, 8人が同居、多い時には14, 15人が同居していたこともあったという。



古写真 20 寮室の風景 (1)



古写真 21 寮室の風景 (2)

②食事風景（古写真 22・23・24）

すでに触れたように食事は寮生が揃って講堂棟でとられていた。古写真22・23・24はいずれも食事風景の一コマで、100人を超す女性が食卓を挟んで6列に座って食事をとっている。古写真22の背後には先にみた講堂の演壇や背後壁面がみえ、天井や側壁に取り付く2枚合わせの方杖や窓の様子などからもこの場所が講堂棟の中であることがわかる。23・24の古写真には演壇がみえないが、講堂棟内であることは間違いなく、演壇と反対の面、すなわち講堂棟内部を南側から北方に向けて撮られたものであろう。いずれにせよ、言い伝え通り食事は講堂棟でとられていたことが確認でき、講堂棟は食堂も兼ねていたことになる。



古写真 22 食事風景 (1)



古写真 23 食事風景 (2)



古写真 24 食事風景 (3)

③髪結い（古写真 25・26）

髪を整えることは女性の命でもある。古写真25のタイトルに「結髪室」とあるように髪結専用の部屋が設けられ、彼女たちは身を整えていた。この部屋の様子は、2枚の古写真ともに、左手に1間幅の窓が2つあり、その脇の半間が土壁で、そこから右手に折れて2間以上の土壁がつい

ている。このような間仕切りを持つ部屋をさがすと、この写真にみられる「結髪室」は、二号棟東階段の東隣にあったと思われる。同じような部屋は他の棟にもあったと考えられる。



古写真 25 結髪室 (1)



古写真 26 結髪室 (2)

④講演・研修会 (古写真 27・28・29)

古写真 27 は講堂棟における講演風景である。「泉桂先生の講演と浪花節、昭和 23. 12. 14」との添え書きがある。演壇に立つ男性が講師の泉桂先生で、この講演の後には浪花節の余興も行われたのであろう。演芸が右側前方で椅子に座っている 4 人は上司と思われ、その前方に座る聴衆の多くは女性である。その数はざっと数えても 200 人を下らない。

古写真 28・29 は、一号棟 2 階の広間で行われた講演や研修の写真である。特に古写真 28 は広間一杯に聴衆者がみられる。この写真には「寄宿舍修養室」とあるが、正面中央の講師の横奥に仏壇がみられ、その横の 1 間幅の押入れからもこの部屋が一号棟 2 階の広間（ブツマ）であることは明らかである。古写真 29 は黒板に「責任、女子の通弊と云はれてゐるのは何か・・・」とあるように、女性としての修養・教養を論ずる研修の一コマと思われる。

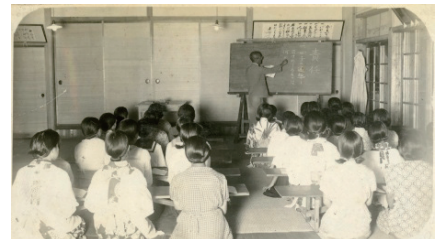
このような講演会や研修会あるいは演芸などの娯楽も寮内で行われていたことがわかる。



古写真 27 講演・研修会 (1)



古写真 28 講演・研修会 (2)



古写真 29 講演・研修会 (3)

⑤和裁 (古写真 30・31・32)

古写真 21 でみた生け花とともに和裁も当時の女性が身につけるべき修養の一つであった。古写真 30～32 はこうした和裁教室の風景である。古写真 30「昼間和裁部」とあり、クラブ活動として組織されていたことがわかる。この写真の部屋は一号棟 2 階の広間で、古写真 32 も広間に続く部屋での和裁教室とみられるが、古写真 31 には「寄宿舍裁縫室」とあり、別に裁縫室があったこともわかる。ただし、宿舎内における「裁縫室」の位置は現段階では特定できていない。



古写真 30 和裁 (1)



古写真 31 和裁 (2)



古写真 32 和裁 (3)

⑥卓球大会（古写真 33・34）

古写真 33・34 は講堂棟での卓球風景である。古写真 33 では 4 台、34 では 2 台の卓球台が並べられ、いずれの台にも審判がついていることから、寮内における競技大会の 1 コマと思われる。古写真 35 も卓球風景であるが、これは宿舎棟の連絡通路での 1 コマと思われる。要するに寮生にとって卓球は日常生活における楽しいな娯楽の一つであった。

そして、これらのことから講堂棟は当時、体育館としても活用されていたことがわかる。



古写真 33 卓球 (1)



古写真 34 卓球 (2)



古写真 35 卓球 (3)

⑦合唱（古写真 36）

古写真 36 は合唱風景である。場所は特定できないが、素足の女性 11 人がピアノ演奏に合わせて合唱に興じている。齋藤氏によれば、当時このような合唱クラブもあったという。



古写真 36 合唱

⑧七夕・盆踊り（古写真 37・38）

古写真 37 は講堂内における七夕飾りの記念写真である。

2 列目中央の 4 人の舎監や役員の男性とともに 120 余人の女性がみられる。ちなみに、最後列の「七夕」の「夕」の字の位置にみられる女性が今回お話をうかがった齋藤ケサミ氏である。また古写真 38 は、一号棟の南にあるグラウンドでの盆踊り風景であり、多くの浴衣姿の女性が踊っている。後方には前述した石造・洋風の旧玄関ポーチがみえている。



古写真 37 七夕



古写真 38 盆踊り

⑨祭礼（古写真 39・40・41）

古写真 39 は半被姿で、鉢巻を締めた男性が並び、背後の大徳利や法被の襟に「祝商工祭」とあり、地元商工祭に会社を挙げて参加していたことがわかる。また、古写真 40 にはやはり法被・鉢巻姿の男性 10 数名とともに白くて幅広の襟が目につく着物姿の女性が 100 人余も整列。これも祭の際の記念写真とみられる。

さらに古写真 41 は鼓笛隊の写真である。制服、製帽姿の 29 人の楽隊員が整列している。右端の女性が指揮者であろう。このように鼓笛隊も組織されていたことがわかる。なお、この写真からバックに写る講堂棟南面の外観がよくわかる。

ところで、立平氏によれば、こうした祭礼は、戦前・戦中にはほとんど考えられず、戦後の物不足によって衣料需要が急増し、織機が「ガチャン」とひと動きすれば、万という金が儲かる「ガチャ万時代」を迎えた昭和 22 年から 23 年以降になって行われるようになったという。



古写真 39 祭礼(1)



古写真 40 祭礼(2)



古写真 41 鼓笛隊

⑩新入社生（古写真 42・43）

古写真 42・43 は新たに入社した社員の集合写真とみられる。古写真 42 には「S 24 年 3 月新制中学卒業の新入舎生記念撮影 於本社前」との添え書きがある。中学卒となれば 14、15 歳であり、上司や役員とみられる男性に混じって幼な顔の 32 人の少女がみられる。新入社員ではなく、「新入社生」と呼んでいるのもそのためであろう。

また、古写真 45 は昭和 25 年の「新入社生」の記念写真で、やはり幼い表情の 67 人の少女がみられる。新入社生の数は 2 年前とは 2 倍であり、この間の会社の繁栄ぶりも偲ばれる。

なお、勝山の機業会社が県外からの集団就職生を受け入れるようになったのは昭和 30 年代半ばころからという。



古写真 42 新入社生 (S24. 3)



古写真 43 新入社生 (S25. 3)

⑪その他（古写真 44・45・46）

古写真 44 は宿舎棟内の 1 室における記念写真である。ただし、この写真の部屋が宿舎棟のどの部屋であるのかは特定できない。

古写真 46 には「昭和 18 年 1 月元旦 拝賀式後二於ケル記念撮影」とある。写真 45 は演壇があって礼服姿や紋付袴姿の男性が整列していることから古写真 45 の前に行われた拝賀式の写真とみることができる。この 2 枚の古写真に写る建物は、ともに梁間が 4 間前後であり、現在の休養棟の規模と合っている。しかし、休養棟に演壇はなく、演壇があったのは講堂棟である。しかし、演壇の様子や上下 2 段の窓の取り方や天井、トラスを受ける斜材の取り付け方などは現在の講堂棟とは明らかに異なっている。

したがって、この 2 枚にみられる建物は、現存の休養棟、講堂棟のいずれでもなく、現段階では特定できない。なお、立平氏によれば、当社が現在地に社屋を移す以前にあった講堂ではないかとのことである。



古写真 44 その他(1)



古写真 45 その他(2)



古写真 46 その他(3)

⑫齋藤ケサミ氏の提供写真

3 月 6 日に聞き取り調査をさせていただいた齋藤ケサミさんから後日、彼女が手持ちの写真が届いた。これらの写真からも当時の「精華寮」やそこでの生活ぶりをうかがうことができる。ご本人の承諾を得たのでここに掲載させていただいた。仲間とのスナップ写真がほとんどであるが、その中で、今立大滝神社への研修旅行の写真が目にとまった。これは、今日の小・中学校や高校でも行われている遠足に類するものと思われる。この写真からも「精華寮」が寄宿舍とともに学校としての性格も持ち合わせていたことを伺い知ることができよう。



3. 古写真のもつ意義

これらの古写真を通して、織り子さんたちの寮室や宿舍棟での生活ぶりを伺うことができる。寮室内で寛ぐ様子をはじめ、たくさんの織り子さんが一同に会しての食事風景、ほかにも講演会の様子や生け花・裁縫教室、卓球大会、七夕や盆踊り、合唱や鼓笛隊などさまざまな生活ぶりが伺える。



研修旅行（今立、大滝神社）

「新入生」の記念写真などをみると、10代半ばと思われる幼顔の少女の姿が多く見受けられる。昭和16年8月に発表された京都大学医学部「勝山地方に於ける工場労務者の調査報告書」によると、1521名の対象者のうち男子は356名、女子はその3倍近くの1165名で、76%を占めていた。女子の年齢構成は、10代が45%、20代が30%で、若年層が圧倒的に多いこと、また、女子のうちの202名が機業場に設けられていた宿舍に入っていたという。つまり女工さんは勝山町内だけでなく、周辺の農村部や石川県白峰村あたりからも来ていたことがわかる。そのために多くの女工を抱える大機業場では女子用の宿舍を設ける必要があったわけである。

しかも織り子さんの多くは、中学校卒業後、ただちに就職していた。これは入社の際の記念写真の中に幼顔の少女たちがみられることからもうかがえるであろう。機業場の宿舎はこうした少女たちに女性としての嗜みや教養を身に着けさせることも要求されていた。つまり、単なる宿舎、アパートではなく、読み書き、そろばん、裁縫など、彼女らの教養や情操教育の場でもなければならなかったのである。そのために寮室だけでなく、仏壇を備えたブツマや髪結室も必要であり、講習会やクラブ活動も行い、修学旅行も実施されていたのである。古写真において新入社員ではなく、「新入社生」とあるのもこうした理由からであろう。

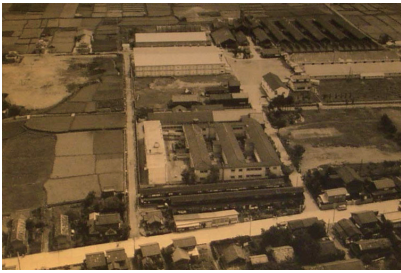
すなわち、これら古写真は、上掲の京都大学医学部の報告書の内容をより具体的に示してくれる貴重な歴史資料である。

4. 結語・・・「精華寮」のもつ意義

以上、古写真を通して「精華寮」での生活風景を紹介してきたが、その1からその4を通して、松文産業（株）の旧女子寮であった「精華寮」の意義について、建築・建築史の視点から総括すると、以下のような点を指摘できる。

- ①「精華寮」は長大な3棟の宿舎棟とともに玄関棟や講堂棟、休養棟などからなる大規模な木造施設である。いずれの建物も内部には大きな改変がみられるが、群としての構成や南京下見板張の外観はほぼ旧状のまま現存している。
- ②宿舎棟の3棟はいずれも1階内部は倉庫に改修されているが、2階内部は宿舎の面影を留め、なかでも三号棟2階はほぼ往時の寮室の部屋割がそのまま残存している。さらに大幅に改修されている各棟の1階内部および二号棟・三号棟の2階についても痕跡などから旧状を復元することができた。
- ③現在の玄関棟は、一号棟宿舎の一画を含み込んで後に増設されたものであるが、「精華寮」の正面玄関として、また県内における近代和風建築の一例として貴重である。しかも、古写真から当初の玄関の様子もわかり、石造で、洋風のデザインをもつ格調高い玄関ポーチがついていたことも注目される。
- ④講堂棟については、内部が大幅に改修され、現況からは往時の面影はまったく伺えない。しかし、残されている古写真から演壇をもつ、整った講堂内部の様子がうかがえる。また、現況でも柱や小屋組（トラス）などの骨組はそのまま保持されていることも確認できる。
- ⑤「精華寮」は大機業場に付設されていた宿舎施設であるが、勝山市域はもとより、全国的にみても類例の現存事例は報告されていない。したがって、各建物の内部に改修はみられるものの、宿舎施設が群とし現存している「精華寮」は建築史的にもきわめて貴重なものである。
- ⑥松文産業（株）所有の古写真は、創建当初の玄関ポーチや講堂棟の内部の様相を具体的に教えてくれるとともに、これらを通して「精華寮」内の織り子さんたちの生活を知ることができる貴重な歴史資料である。

古写真一覧



1 社屋全景



2 一号棟外観



3 宿舎棟廊下



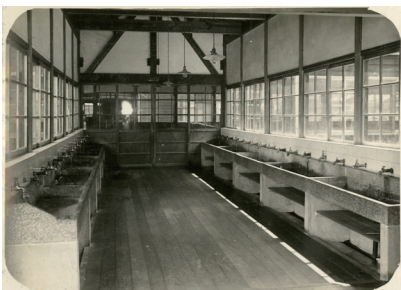
4 寮室内部



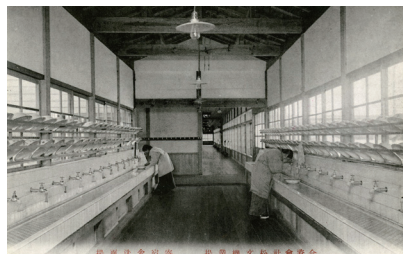
5 便所 (1)



6 便所 (2)



7 洗面場 (1)



8 洗面場 (2)



9 洗濯場 (1)



10 洗濯場 (2)



11 玄関ポーチ



12 玄関ポーチ詳細



13 玄関内部 (1)



14 玄関内部 (2)



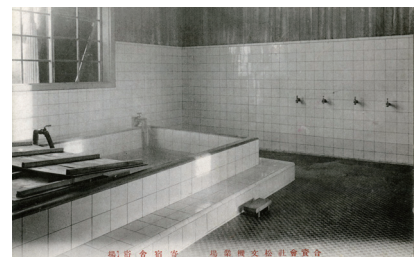
15 玄関内部 (3)



16 講堂内部 (1)



17 講堂内部 (2)



18 浴場 (1)



19 浴場 (2)



20 寮室の風景 (1)



21 寮室の風景 (2)



22 食事風景 (1)



23 食事風景 (2)



24 食事風景 (3)



25 結髪室 (1)



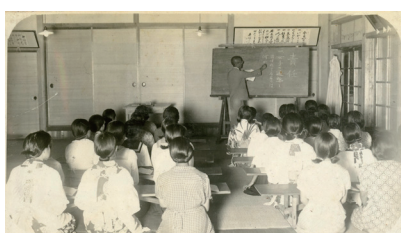
26 結髪室 (2)



27 講演・研修会 (1)



28 講演・研修会 (2)



29 講演・研修会 (3)



30 和裁 (1)



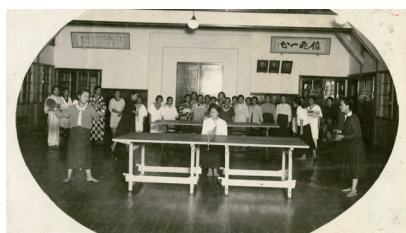
31 和裁 (2)



32 和裁 (3)



33 卓球 (1)



34 卓球 (2)



35 卓球 (3)



36 合唱



37 七夕



38 盆踊り



39 祭礼 (1)



40 祭礼 (2)



41 鼓笛隊



42 新入社生 (S24. 3)



43 新入社生 (S25. 3)



44 その他 (1)



45 その他 (2)



46 その他 (3) (S18. 1. 1)

(平成 24 年 3 月 31 日受理)